

格差と貧困について考える図書館

飯島 裕子 館長

ノンフィクションライター

●館長プロフィール●

ノンフィクションライターとして、雑誌などにインタビューやルポルタージュを書いています。
最近『ルポ貧困女子』（岩波新書）という本を出しました。

●ひとハコ図書館のコンセプト●

誰にとっても他人事ではない、格差と貧困に関する本をマジメに集めてみました。
一朝一夕で解決できることはありませんが、皆で一緒に考えるきっかけになればと思います。

Q1 あなたにとってはじめての図書館は？

子どものころに住んでいた家の隣にあった「ムーシカ文庫」。『ながいながいペンギンの話』などで知られる児童文学者のいぬいとみこさん主宰の文庫でした。子どものために本の貸出と読み聞かせをやっていて、私も毎週通っていました。

Q2 図書館にあったらいい・できたらいいと思うことは？

図書館に泊まってみたいです。最近、書店に泊まるイベントなどが開かれています、その”図書館版”という感じ。あとは子どものためのスペース（靴を脱いで上がる場所）に寝そべって、思い切り絵本を読みたいです(笑)。

Q3 このひとハコ図書館がある所はどこですか？

難しい質問です。学校の図書館とかに置いてありそうなラインアップになってしまいましたが、そういう堅苦しい場所ではなく、老若男女が自然に集まる場所——やっぱり東久留米市内の図書館の特設コーナー！？しかないでしょう。